

## 報告事項 2

# (2) 首里城復興への寄附金活用の取組

沖縄県に寄せられた寄附金額（令和5年3月末）

**5,737,180,033円**

（内訳）

(1) 令和元年11月～令和4年3月 **5,541,420,099円**

**首里城復興基金**／首里城火災復旧・復興支援寄附金

→ 焼失した城郭内施設等の復元に活用

(2) 令和4年4月～令和5年3月末 **195,759,934円**

**首里城未来基金**／首里城歴史文化継承寄附金

※正式名称：首里城歴史文化継承基金

→ 伝統的な建築等技術に係る人材育成と  
首里城周辺の歴史まちづくり推進に活用

沖縄県首里城復興基金への寄附金は、令和3年度末時点で約55億円が寄せられており、正殿の木材、瓦、屋外彫刻、室内装飾等に活用することが決定している。

沖縄県首里城復興基金の活用に関する方針 第1・第2より

基金は、一日も早い首里城火災からの復興を願う国外を含めた県内外からの寄附金によって積み立てられていることから、県民はもとより県内外の人びとの想いを尊重し、焼失した首里城の城郭内の施設等の復元に活用する。

活用に関する方針 第2より

## 首里城正殿の復元まで (第1フェーズ)

令和5年3月31日時点

※寄附金 総額  
約55.4億円

【約24億円】⇒増額見込

【】内は県で想定した  
概算見込み額

### (1)正殿の木材調達に関する事業

- 大径材(柱・梁・桁などの軸組に使用)の一部  
→令和2年9月 国と覚書締結 令和3年7月に国と調達範囲を協議し事業開始
- 大径材を除く造作材(壁、天井、床などに使用)のうち県産材・化粧材  
→令和3年7月 国と覚書締結 令和5年1月に国と調達範囲を協議し事業開始

### (2)正殿の赤瓦調達に関する事業

- 令和2年12月 国と覚書締結 令和3年度 試作開始 令和5年度現在、国と協議中

### (3)大龍柱等の石彫刻、唐破風妻飾等の木彫刻及び龍頭棟飾等の焼物など、屋外彫刻の復元に関する事業

- 石彫刻(大龍柱等)・木彫刻(唐破風妻飾等)  
→令和3年7月 国と覚書締結 令和5年1月に国と調達範囲を協議し事業開始
- 焼物(龍頭棟飾等)  
→令和3年7月 国と覚書締結 令和5年1月に国と調達範囲を協議し事業開始

### (4)扁額などの室内装飾の復元に関する事業

- 扁額 →令和3年3月 国と協議同意 令和3年度 事業開始
- 扁額以外→令和3年7月 国と覚書締結 令和5年1月に国と協議し事業開始

## 正殿復元後 (第2フェーズ)

(5)～中略～北殿及び南殿  
等の復元に関する事業

## 【基金(寄附金)活用事業費の増額について】

- ・令和3年7月時点で公表した概算額約24億円が約43億円の増額となる見込み(約19億円増)

## 【主な増額要因】

- ・令和3年度末に国の実施設計が完了したことにより、県の調達範囲が明確化  
 ⇒ 県が調達する木材(化粧材)の木材数量が想定より増(約1.6倍)  
 ⇒ 往時と同様の樹種への変更(ヒノキ→イヌマキ)等による木材単価増(約1.8倍)
- ・学識者監修により得られた新たな知見等を踏まえた前回復元時からの変更  
 ⇒ 監修会議の開催、復元に向けた手法の検討・試作等を行うための必要経費増

## 【(参考)これまでの経緯】

年	R3	R4	R5	R6	R7	R8
国関係		R4.3 国の正殿 実施設計完了				正殿完成予定
県関係	R3.7 (当初公表) 基金活用事業費 約24億円		R5.7 (今回公表) 基金活用事業費 約43億円			

# 首里城復興基金（寄附金）を活用した取組 ※首里城扁額製作

## 〈目的〉

- 首里城火災で焼失した正殿の二階に掲げてあった扁額3枚（ちゅうざんせいど しゅうずいきゅうよう えいそえいぜん中山世土・輯瑞球陽・永祚瀛壖）の製作に向けた課題、検討事項の整理を行い、その仕様や製作方法等を取りまとめ設計に反映させるため、首里城扁額製作検討委員会を設置する。

## ■検討委員会

- ・有識者・専門家5名（歴史・漆芸など）

## ■設計業務

- ・業務期間：令和3年7月頃～令和5年3月

## ■製作

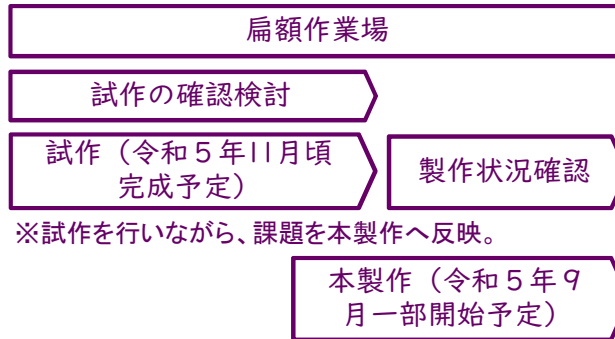
- ・令和3年度の設計業務にて、前回と仕様が大きく異なることが分かった。令和4年度は、主に題字彫刻、落款印の仕様、彩色の色味、額縁彫刻文様の図案検討を行い、試作仕様を決定した。令和5年度より試作を開始し、試作での課題を本製作へ反映し、本製作に取組む。
- ・仕様が大きく異なることから、国の正殿工事完成までに扁額1枚の完成を目標とする。
- ・製作期間：令和5年度～8年度（予定）

### 令和4年度の主な検討状況

- 題字の断面形状・厚み
- 落款印・銘の製作技法
- 彩色の色味
- 額縁彫刻文様図案

### 試作仕様の承認

### 令和5年度の取組（予定）



## ◎題字の断面形状、厚みの検討



蒲錐形15mm 薄板形15mm 蒲錐形20mm

題字の断面形状は、琉球事例を参考に蒲錐形で決定。

題字の厚みは、15mmと18mmの2案製作し、試作にて比較して決定する。

## ◎額縁文様の検討



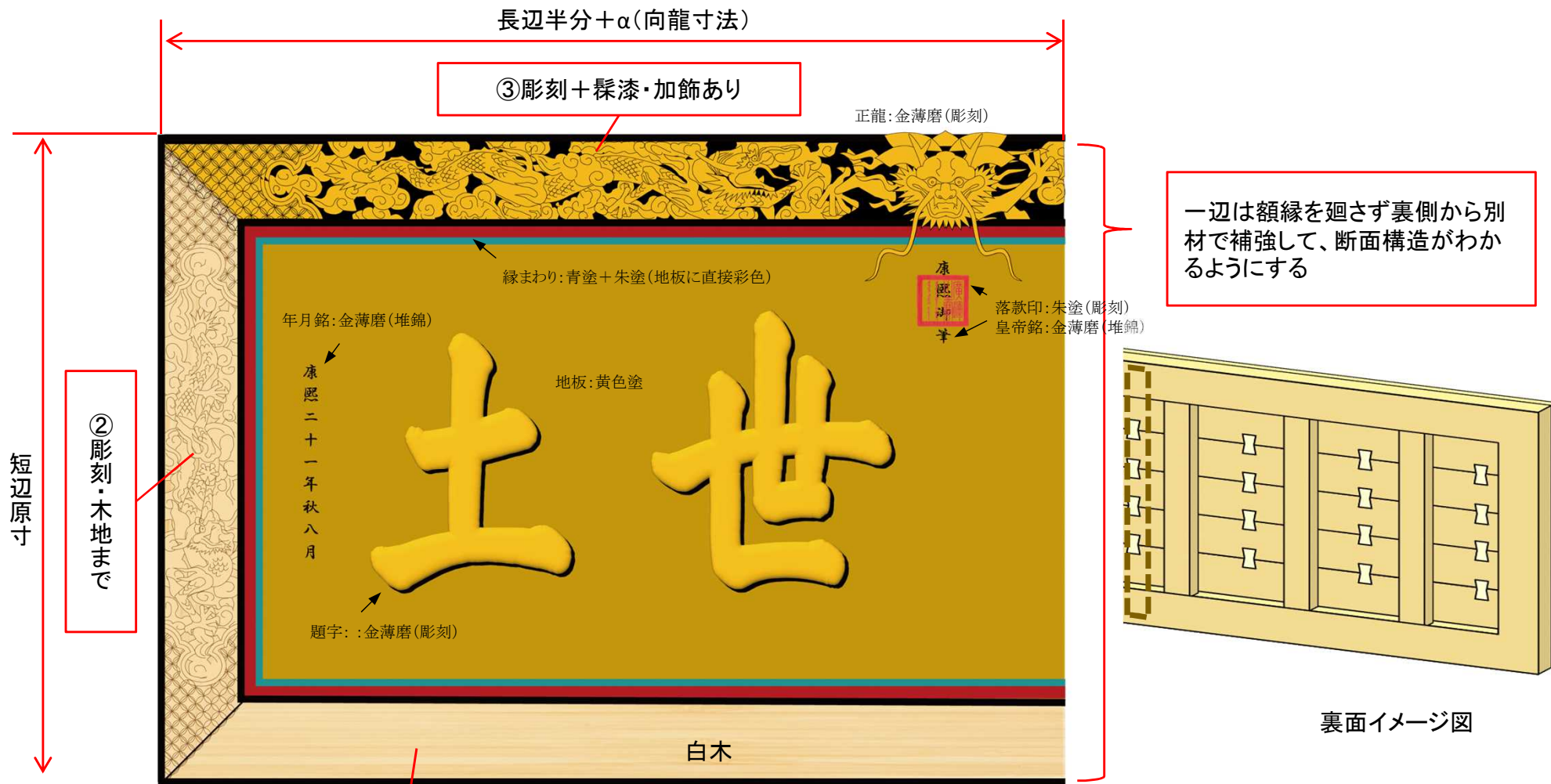
琉球彫刻事例の扁平の向龍を立体的にアレンジ。さらに、正殿大龍柱の特徴を反映。





# 首里城復興基金（寄附金）を活用した取組 ※首里城扁額製作

令和5年度より開始する試作のイメージ

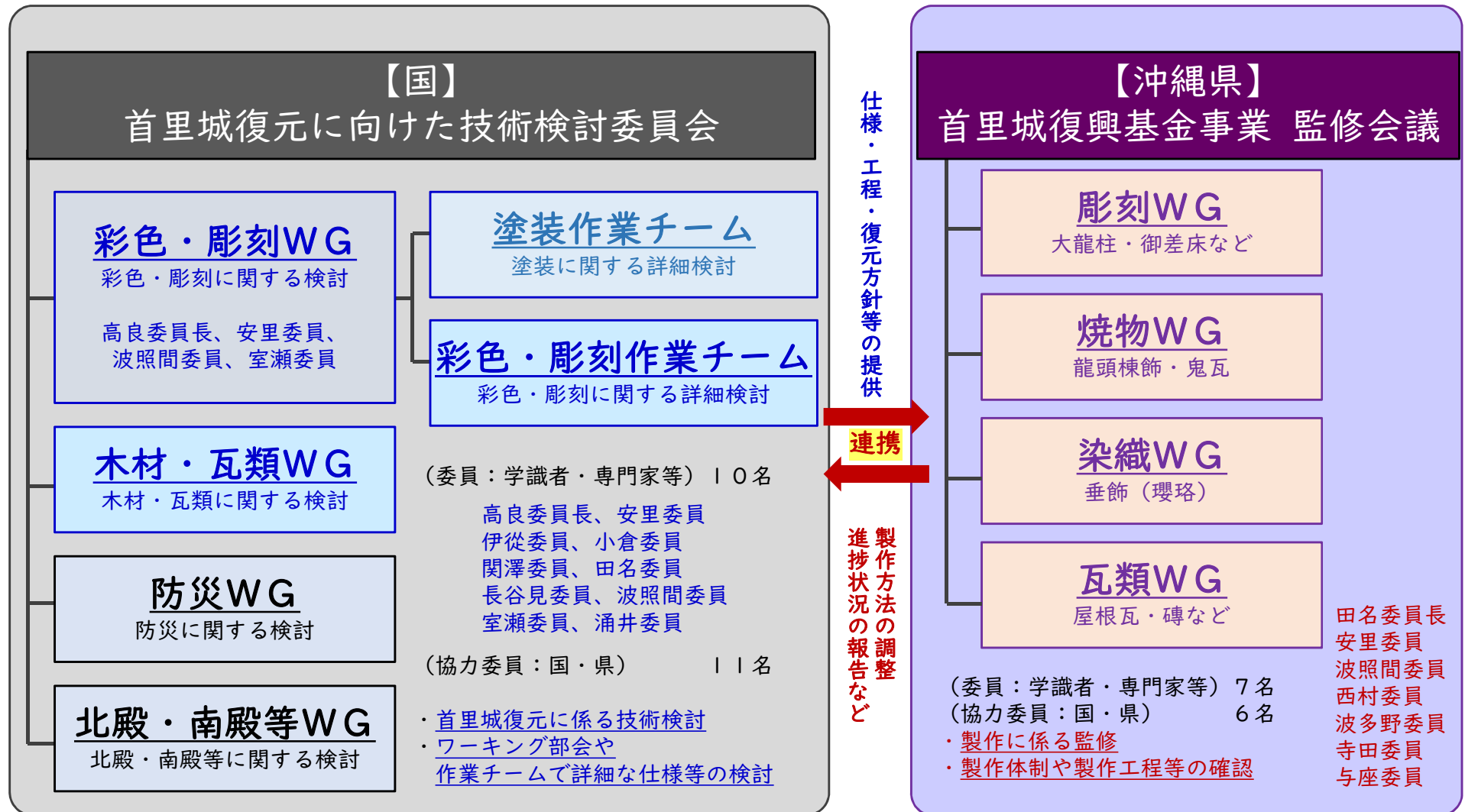


額縁は①～③の工程を3辺で段階的に見せる。  
 地板の髹漆については、別途で髹漆工程の手板を作成する。

※安全性を考慮し、棧・かすがいで懸念があれば、裏側から別材で補強することも可能。

# 1. 首里城復興基金事業 監修会議

<目的> 首里城火災からの復興を願う寄附金によって積み立てられた首里城復興基金を活用し、首里城正殿の復元工程に合わせ、国から提供された仕様をもとに円滑に製作できるように、首里城復興基金事業 監修会議（以下「監修会議」という。）を設置する。



県の会議と関係する会議

<任期> 2年更新（再任を妨げない）

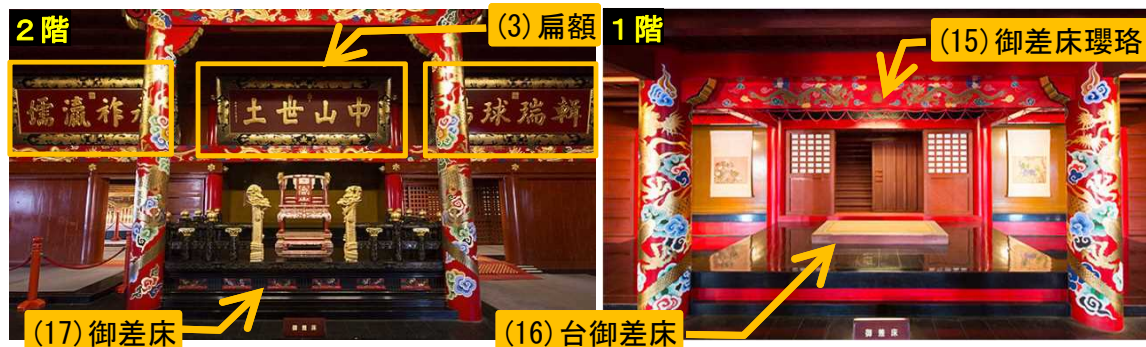
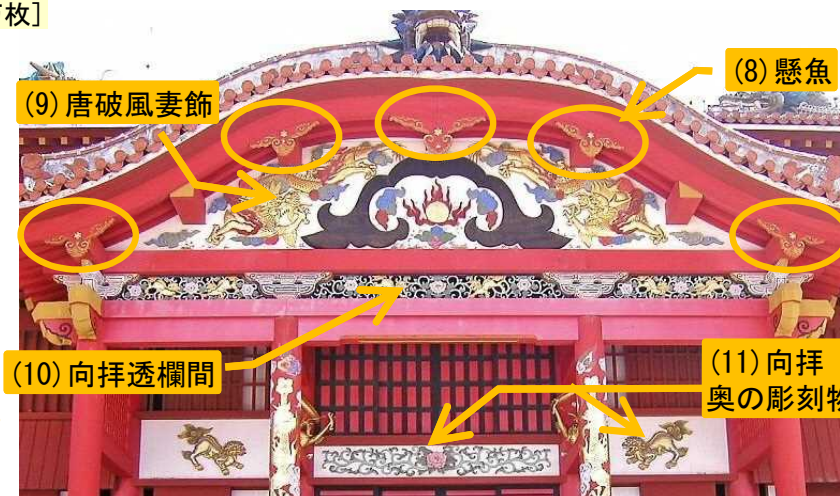
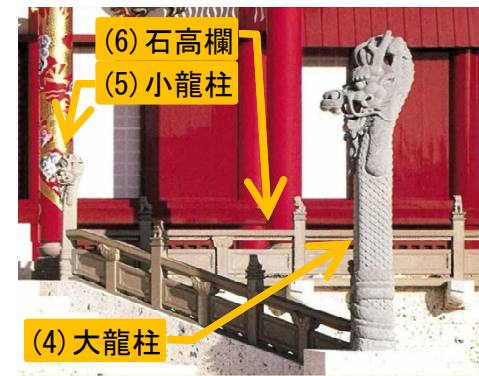


## 2. 首里城復興基金事業の対象

部位	種類	名称		
木材	- 大径材	柱材(国産ヒノキ) 向拝柱材(イヌマキ) 小屋丸太梁材		
	- 大径材以外	角材(化粧材・県産材) 板材(壁・天井・床等)		
赤瓦	(1) 赤瓦	瓦[正殿 約60,000枚] [金型・機材・環境整備]	【瓦類 WG】	
	(2) 瓦類	雲型飾瓦[約280個] (くもがたかざりがわら)		
屋外彫刻	(4) 石彫刻	大龍柱/台石	【彫刻 WG】	
	(5) "	小龍柱		
	(6) "	石高欄/持送石 (いしこうらん)		
	(7) "	礎石[105個] 礎盤[4箇所×3段]		
	- "	石階段		
	(8) 木彫刻	懸魚(げぎょ)		
	(9) "	唐破風妻飾 (からはふつまかざり)		
	(10) "	向拝 透欄間 (こうはい すかしらんま)		
	(11) "	向拝 奥の彫刻物 (こうはい )		
	(12) 焼物	龍頭棟飾[3個+胴体] (りゅうとうむなかざり)		【焼物 WG】
	(13) "	鬼瓦[4個] (おにがわら)		
(14) 瓦類	磚[約1,500枚] (せん)	【瓦類 WG】		
室内装飾	(3) 漆芸	扁額[3点](へんがく) [共同作業場]		
	(15) 垂飾	1階 御差床瓔珞 (うさすかようらく)	【染織 WG】	
	(16) 造作・彩色	台御差床 (だいうさすか)	【彫刻 WG】	
	(17) 造作・彩色	御差床 (うさすか)		



正殿以外の赤瓦[約30万枚]



県で製作し首里城内で国へ引渡し(彩色や設置等の現場作業を含まない)



# 首里城復興基金(寄附金)の国への引渡し想定時期(R5.7案)

部位		種類	名称	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
木材	-	大径材	柱材(国産ヒノキ)	引渡し済				
			向拝柱材(イヌマキ)	引渡し済				
			小屋丸太梁材	引渡し済				
	-	大径材以外	角材(化粧材・県産材)		○	●		
			板材(壁・天井・床)		○	●		
赤瓦	(1)	赤瓦	丸・平瓦[約54,000枚]		○	●		
			軒瓦[約6,000枚]		○	●		
			金型・機材・環境整備	—				
	(2)	瓦類	雲型飾瓦[約280個](くもがたかざりがわら)			●		
室内装飾	(3)	漆芸	扁額[3点](へんがく)					設置予定※
屋外彫刻	(4)	石彫刻	大龍柱/台石					●
	(5)	//	小龍柱			●		
	(6)	//	石高欄/持送石(いしこうらん)			●		
	(7)	//	礎石[105個]		●			
			礎盤[4箇所×3段]		●			
	-	//	石階段			●		
	(8)	木彫刻	懸魚(げぎょ)			●		
	(9)	//	唐破風妻飾(からはふつまかざり)			●		
	(10)	//	向拝透欄間(こうはいすかしらんま)			●		
	(11)	//	向拝奥の彫刻物(こうはい)			●		
	(12)	焼物	龍頭棟飾[3個+胴体](りゅうとうおなかざり)			●		
	(13)	//	鬼瓦[4個](おにがわら)			●		
	(14)	瓦類	磚[約1,500枚](せん)				○	●
	室内装飾	(15)	布飾り	1階 御差床璣珞(うさすかようらく)				
(16)		造作・彩色	1階、2階 台御差床(だいうさすか)		●			
(17)		造作・彩色	2階 御差床(うさすか)		●			

※扁額は県所有

凡例：●国(正殿建築工事)への引渡し想定時期 ○一部引き渡し

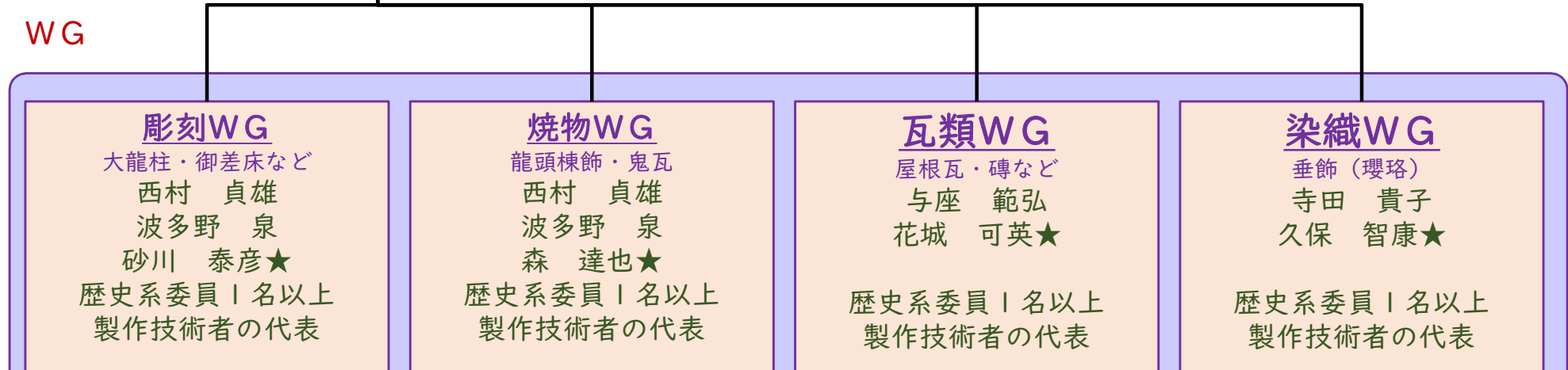
### 3. 監修会議、ワーキング部会の構成と役割

- ・ 監修会議では、学識有識者7人のほか、関係機関を協力委員として配置。【設置要綱 第3条】
- ・ 監修会議は、製作及び監修方針をとりまとめる場であり、各分野の監修に係る詳細事項については、ワーキング部会（以下「WG部会」という。）にて検討する。【設置要綱 第2条及び第6条】
- ・ 各分野のWG部会には、技術継承を図るため、若手を1名程度含める。

**首里城復興基金事業 監修会議**  
 年2回程度開催  
 製作及び監修方針をとりまとめる場  
 (1)製作体制及び製作作業工程に関すること。  
 (2)監修方法及び監修頻度に関すること。

委員	歴史(琉球史)	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館 館長(委員長)
	歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
	歴史(文化史)	波照間 永吉	沖縄県立芸術大学 名誉教授
	彫刻・焼物	西村 貞雄	琉球大学 名誉教授
	彫刻・焼物	波多野 泉	沖縄県立芸術大学 学長
	染 織	寺田 貴子	活水女子大学 特別専任教授
	瓦 類	与座 範弘	沖縄県立芸術大学 工芸専攻非常勤講師

※協力委員6人



**各分野のWG**

年2回程度+適宜開催、製作や監修方法等の詳細検討

分野別の専門家(2~3人)、歴史系委員1人以上、製作技術者の代表で構成 ※分野別WG部会での参加者は★

4. 令和4年度における監修会議と各WG部会の開催状況

会議名	12月	1月	2月	3月	備考
監修会議	① 監修会議(12/6)			② 監修会議(3/7)	2回
彫刻WG部会	① 12/19	② 1/27	③ 2/28		3回
焼物WG部会			① 2/3	② 3/1	2回
瓦類WG部会			① 2/17		1回
染織WG部会			① 2/14	② 3/2	2回

月	会議名	議論の概要
12月6日	第1回 監修会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>監修会議及びWG部会の進め方の確認</li> <li>技術者選定の基本的な考え方 及び 各WG部会での選定について確認</li> <li>人材育成・技術継承の方針(製作記録の活用と情報発信など)の確認</li> <li>材料調達の進捗状況の確認</li> </ul>
12~3月	各WG部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作・監修方針の詳細(製作工程と監修/記録の頻度など)を検討</li> </ul>
3月7日	第2回 監修会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各WG部会の検討状況、製作・監修事項の報告</li> <li>次年度の検討事項の確認</li> <li>人材育成・技術継承に向けた製作記録の状況の確認</li> <li>製作過程における資料状況とその活用・保管の方針の検討状況の確認</li> </ul>

## 5. 首里城復興基金事業での人材育成・技術継承について

### 【人材育成・技術継承の3本柱】

4者：国・県立芸大・指定管理者・県

#### I. 首里城復興基金事業

「首里城復興基本計画」(R3.3 沖縄県)における「基本施策1：正殿等の早期復元と復元過程の公開」として、県内外の人々の想いを実現(カタチに)し見せていくとともに、「基本施策5：伝統技術の活用と継承」として、製作現場が人材育成や技術継承の機会を提供する場にもなる。

#### II. 首里城未来基金

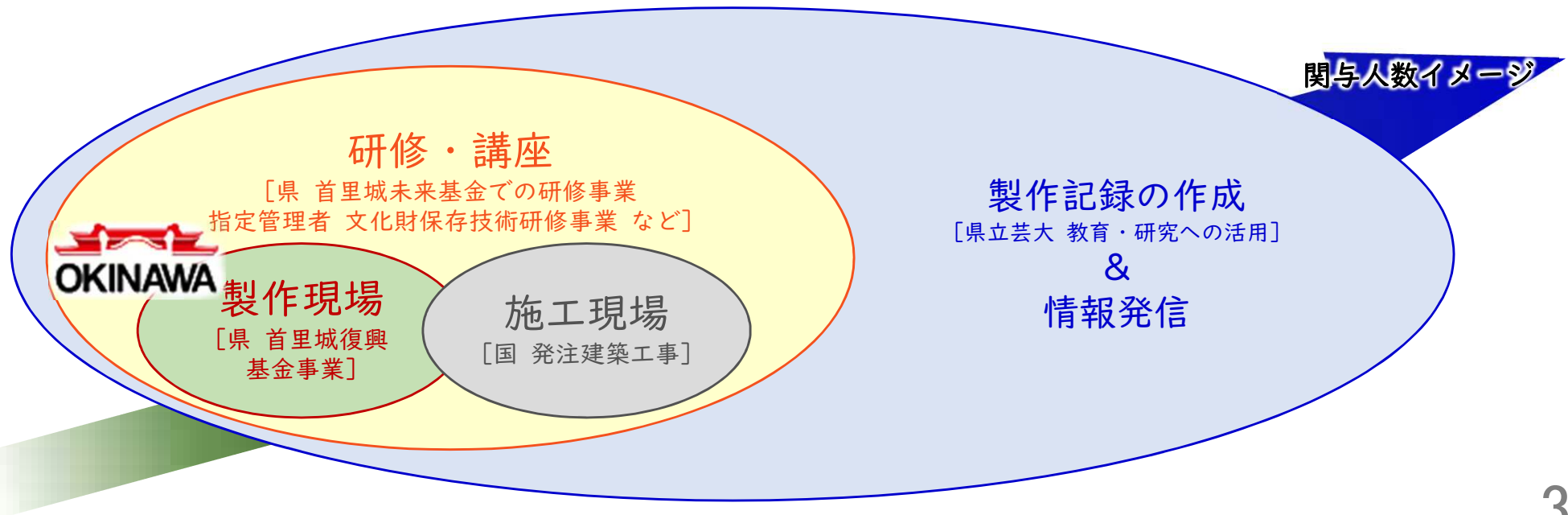
令和4年度から開始しており、「基本施策5：伝統技術の活用と継承」と同様に、「伝統的な建築等の技術の人材育成による継承」として、研修や講座(先進事例地含む)などを令和5年度より実施する予定。

#### III. 4者の連携協定

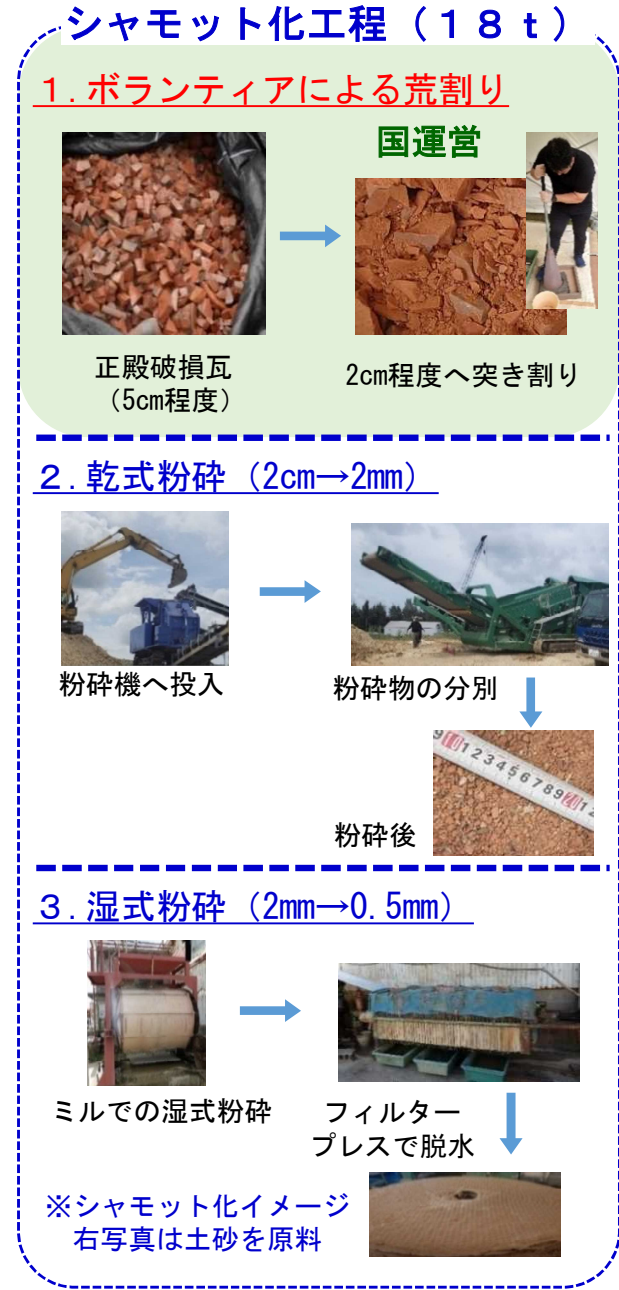
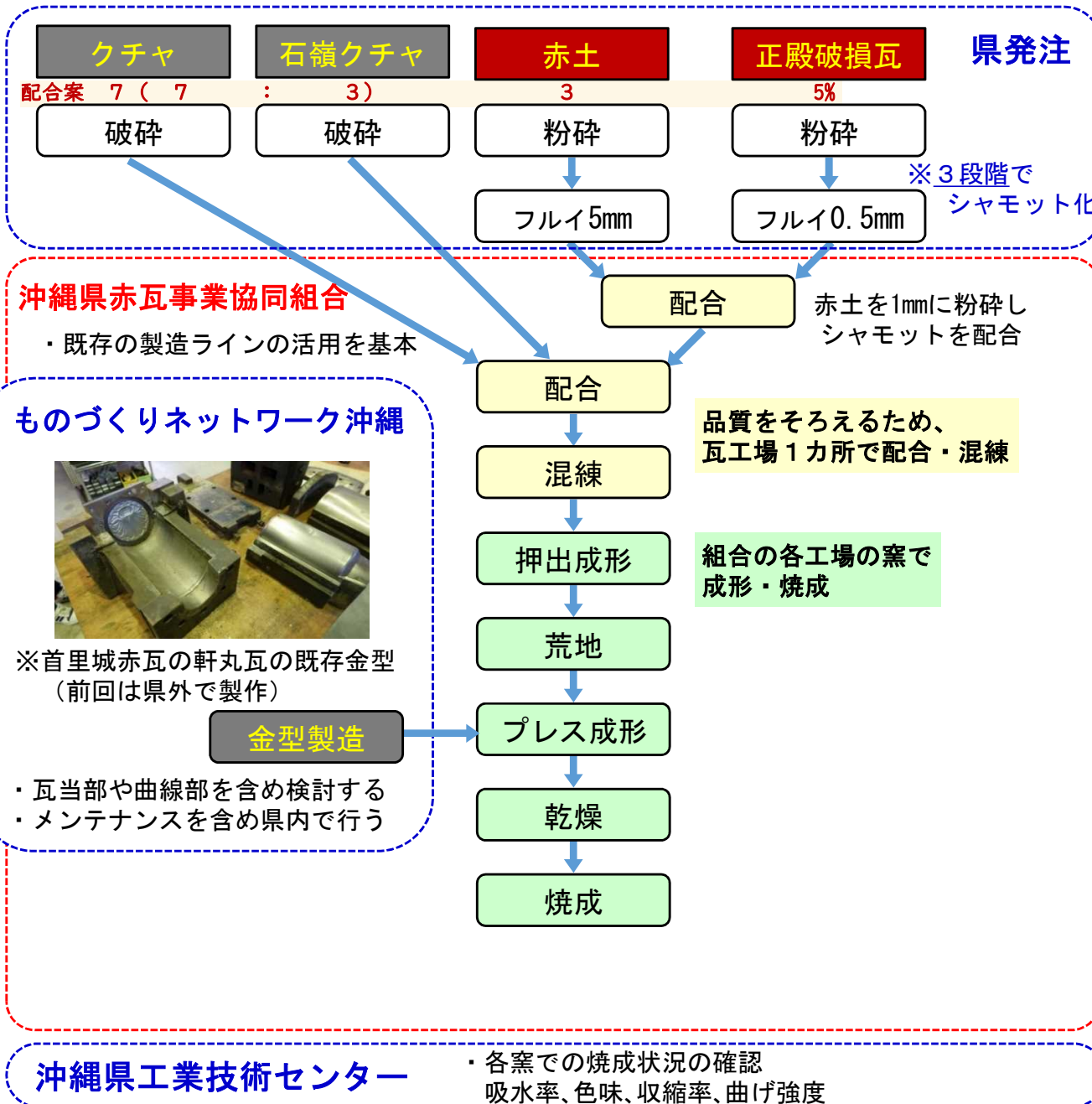
県立芸大や指定管理者と連携し、国や県の現場体制の構築、現場研修(OJT)や講座(Off-JT)等の実施に加え、製作記録の教育・研究活動における教材での活用を図る。

また、首里城復元に資する伝統技術について広く関心を持ってもらえるように情報発信を行うので、製作記録は情報発信の素材としても活用することを視野に、将来の製作技術者の候補や伝統技術継承への理解者の裾野を広げることを目指す。

関与人数イメージ







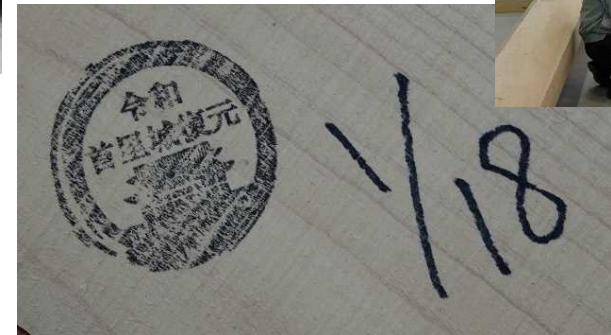
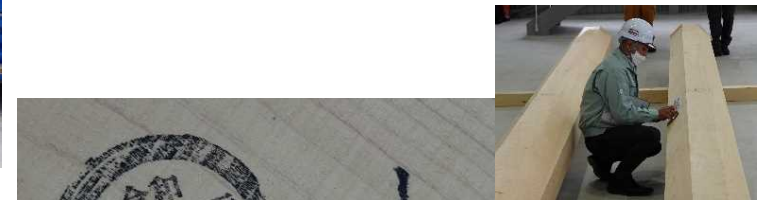
## ■ヒノキ

・柱材 令和5年1月～3月に全4回で搬入(計165本)

1月18日	57本	引渡
2月15日	33本	引渡
3月8日	54本	引渡
3月16日	21本	引渡

・小屋丸太梁 令和5年3月に全2回で搬入(計4本)

3月8日	2本	引渡
3月20日	2本	引渡



首里城木材倉庫への搬入状況

受け入れ検査の状況



## ■ イヌマキ

- ・ 向拝柱用の7本は、令和4年1月に収穫し、令和5年3月14日に搬入(計7本)
- ・ 強度試験は、令和5年2月上旬にカストロ教授(琉球大学)にて非破壊検査等を実施



イヌマキの修正挽き後の保管状況



イヌマキの強度試験状況

## ■ オキナワウラジロガシ(県産材)

- ・ 小屋丸太梁用の3本は、令和4年2月上旬に収穫し、令和4年5月末に樹皮剥ぎを行い、令和5年3月24日に搬入(計3本)
- ・ 年輪計測は、令和4年9月中旬に谷口教授(琉球大学)等にて実施  
(4+材98年・3+材84年・2+材72年)
- ・ 強度試験は、令和5年2月中旬にカストロ教授(琉球大学)にて非破壊検査等を実施



ご提供いただいた地域の方々へ端材を活用して御礼  
(首里城とのつながりを示す展示物)



オキナワウラジロガシの年輪計測状況



オキナワウラジロガシの強度試験状況



# 【参考】首里城復興基金に関連する石材調達イベント ※与那国フェスティバル

※与那国町主催のイベント

## 【式次第】

- 1.安全祈願
- 2.主催者(町長)あいさつ
- 3.町議会議長あいさつ
- 4.祝辞
- 5.来賓あいさつ
- 6.フルシお披露目
- 7.共催者あいさつ
- 8.伝統芸能披露

- (1)座ならし(自治公民館)
  - (2)とぐる岳節(宮良康正)
  - (3)木遣唄、踊り(自治公民館)
  - (4)旅果報節(宮良康正)
  - (5)嘉例吉節( // )
- 9.式典終了宣言

～木遣唄・踊り～

場所：与那国町 久部良漁港内  
日時：令和5年2月25日(土)午前10時～12時

約6～9トンの  
細粒砂岩3つ  
(大龍柱を予定)



安全祈願



主催者(町長)あいさつ



とぐる岳節



フルシお披露目



木遣唄、踊り



座ならし



- ・首里城復興基金への寄附受付は、令和3年度末を以て終了。
- ・引き続き首里城を思う国内外の多くの皆様と連携・協働し、一体的に復興へ取り組むため、令和4年度から下記の基金・寄付金を創設した。

## 「首里城未来基金」の活用先について

首里城に象徴される固有の歴史と文化の継承を目的としており、  
県が令和2年度に策定した「首里城復興基本計画」の  
基本施策に位置づけられている以下2つの事業が対象となります。



I  
首里城復興基本計画  
基本施策5(1)

**伝統的な建築等の技術に係る人材育成事業**

伝統的な建造物木工(宮大工等)、  
彫刻、塗装・彩色等の  
技術者育成

II  
首里城復興基本計画  
基本施策6

**古都首里の歴史的空間創出に係る事業**

首里城周辺の歴史・文化施設整備、  
首里城城壁等の修復、  
歴史まちづくり推進等



内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、(一財)沖縄美ら島財団、県立芸術大学は、正殿や北殿・南殿等の焼失建物の復元、さらに復元後の保存修復等に必要となる伝統技術を継承すべく、復元、保存修復等の技術を有する人材の育成を進めるため、連携協定を締結した。

首里城復元における技術継承・人材育成に係る連携協定締結式  
令和4年11月22日 @首里城公園情報展示室



沖縄美ら島財団  
花城理事長

沖縄総合事務局  
田中局長

沖縄県  
玉城知事

県立芸術大学  
波多野学長

## 今後の県の取組

- ・ 首里城未来基金を活用し、令和5年度から人材育成に係る研修事業を実施する。
- ・ 国の復元工事、及び県の首里城復興基金を活用した制作物監修とも現場実習等で連携を図る。
- ・ その他、各機関連携して人材育成に取り組む。



# 首里城歴史文化継承基金事業（R5新規事業）

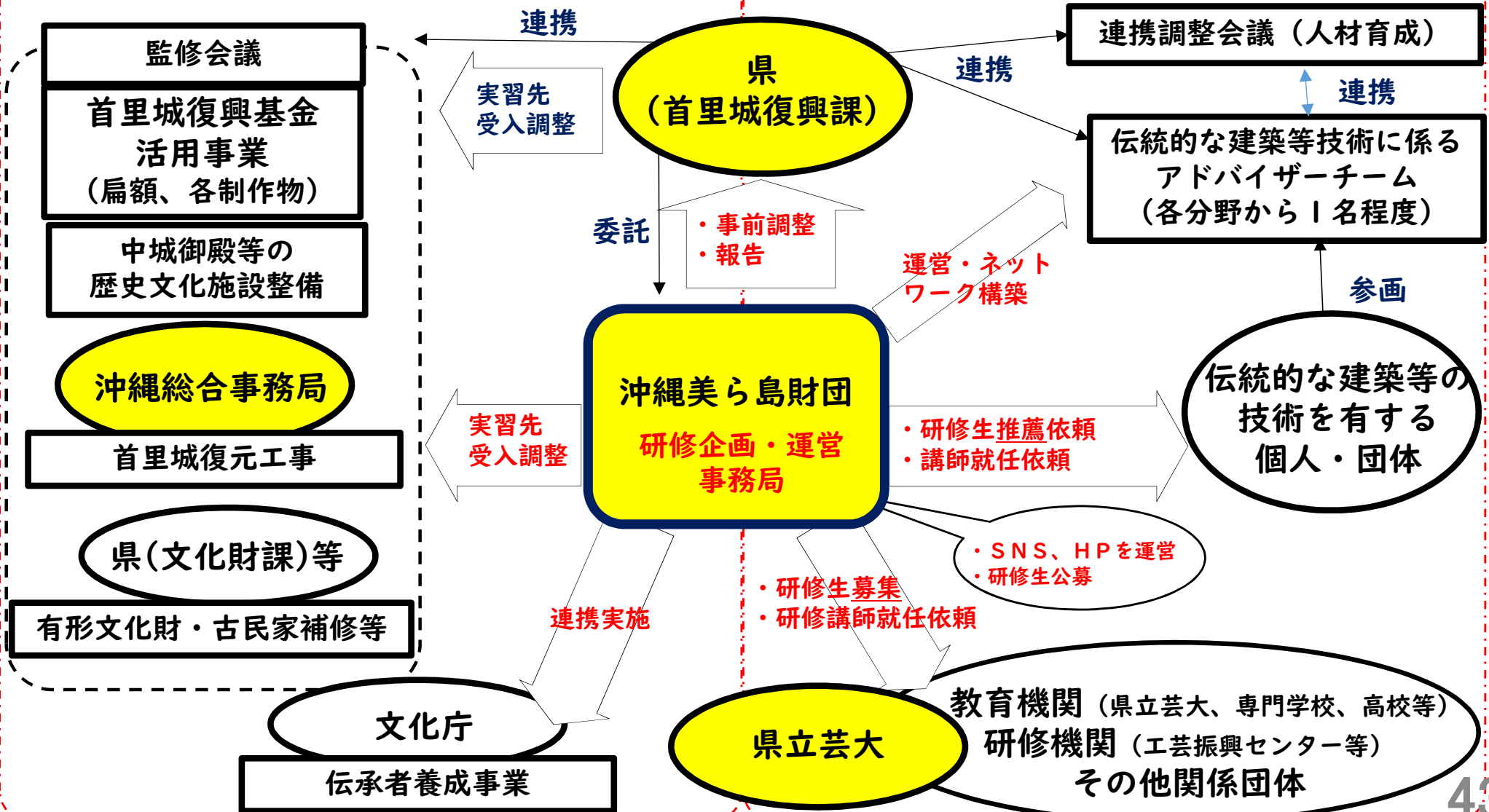
## 首里城未来基金を活用し、伝統的な建築等技術に係る人材育成に取り組む

### 目的1

復元事業等と連携した研修実施による現場  
即応可能な人材の育成

### 目的2

各技術団体・個人のネットワーク構築による  
将来自走可能な連携体制整備



## 議題事項 I

### (1) 令和5年度首里城復興基本計画推進事業（案）

※資料別添